

A background image showing several hands of different skin tones stacked together in a pyramid shape, symbolizing unity and teamwork. The hands are set against a solid red background.

ADWAYS

2023

OCTOBER 31, 2023

PRESENTATION
MATERIAL

THIRD QUARTER



東京証券取引所プライム市場：2489
株式会社アドウェイズ

2023年12月期 第3四半期
決算説明会

2023年10月31日
代表取締役社長 山田 翔

3Q

目次

1. 第3四半期の業績 ...P.4
2. 事業概況 ...P.19
3. 補足資料 ...P.42

本資料における記載方法について

- 2021年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しております。それに伴い「旧基準での売上高」を「取扱高」として記載しております。
- 取扱高は、会計監査人による監査を受けた正式な数値ではない事をご了承ください。
- 2021年12月期から決算期を変更した事により、2021年12月期は国内会社9ヶ月間、海外子会社12ヶ月間、2021年12月期第3四半期は国内会社3ヶ月間、海外子会社6ヶ月間となります。
- 2022年12月期より報告セグメントを、アプリ・ウェブの包括的マーケティング支援を行う「エージェンシー事業(国内/海外)」と、UNICORN・アフィリエイトなどの広告サービスの運営を行う「アドプラットフォーム事業」としております。
- 売上総利益率、販管費率、営業利益率、経常利益率、利益率(親会社株主に帰属する四半期純利益率)、売上原価率、掲載料率は取扱高に対する比率を記載しております。

Chapter1 : **Third quarter results**

1.

第3
四半期
の業績

当四半期の業績と 前年同四半期・前四半期比較

単位：百万円

	2023年 12月期 第3四半期	前年同四半期 から当四半期	前年同四半期比 2022年12月期第3四半期			前四半期比 2023年12月期第2四半期		
		推移	実績	増減額	増減率	実績	増減額	増減率
取扱高	14,306		14,368	▲62	▲0.4%	14,859	▲552	▲3.7%
売上高	3,278		3,215	+62	+2.0%	3,387	▲109	▲3.2%
売上総利益	2,678		2,585	+92	+3.6%	2,740	▲61	▲2.3%
販管費	2,651		2,345	+306	+13.1%	2,650	+1	+0.0%
営業利益	26		239	▲213	▲89.0%	89	▲63	▲70.4%
経常利益	104		303	▲199	▲65.7%	227	▲123	▲54.2%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	▲20		453	▲474	—	71	▲91	—

取扱高 前年同四半期比 62百万円の減少 (0.4%減)
前四半期比 5億52百万円の減少 (3.7%減)

営業利益 前年同四半期比 2億13百万円の減少 (89.0%減)
前四半期比 63百万円の減少 (70.4%減)

2023年12月期 業績予想の修正

[単位：百万円]

	取扱高 (参考値)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前回発表予想	64,000	14,000	1,750	1,950	1,350
2023年10月31日 修正予想	58,919	13,500	800	1,120	750
増減額	▲5,081	▲500	▲950	▲830	▲600
増減率	▲7.9%	▲3.6%	▲54.3%	▲42.6%	▲44.4%

※「前回発表予想」とは2023年2月10日付け「2022年12月期決算短信」で発表した数値。

2023年12月期 業績予想の修正

[単位：百万円]

	取扱高 (参考値)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前回発表予想	64,000	14,000	1,750	1,950	1,350
2023年10月31日 修正予想	58,919	13,500	800	1,120	750
当第3四半期 実績	44,368	10,121	656	907	669
2022年10月31日 修正予想 に対する進捗率	75.3%	75.0%	82.0%	81.0%	89.3%

※「前回発表予想」とは2023年2月10日付け「2022年12月期決算短信」で発表した数値。

2023年12月期配当予想の修正

2023年12月期配当予想

前回発表予想

1株当たり **7円84銭** (配当性向23%)

2023年10月31日
修正予想

1株当たり **4円50銭** (配当性向23%)

3ヶ年（2021年12月期～2023年12月期）の配当方針

第22期

2021年12月期

配当性向21%

もしくは

1株当たり2円70銭

の
高い方

第23期

2022年12月期

配当性向22%

もしくは

1株当たり2円80銭

の
高い方

第24期

2023年12月期

配当性向23%

もしくは

1株当たり2円90銭

の
高い方

※「前回発表予想」とは2023年2月10日付け「2022年12月期決算短信」で発表した数値。

業績予想修正の原因と対策

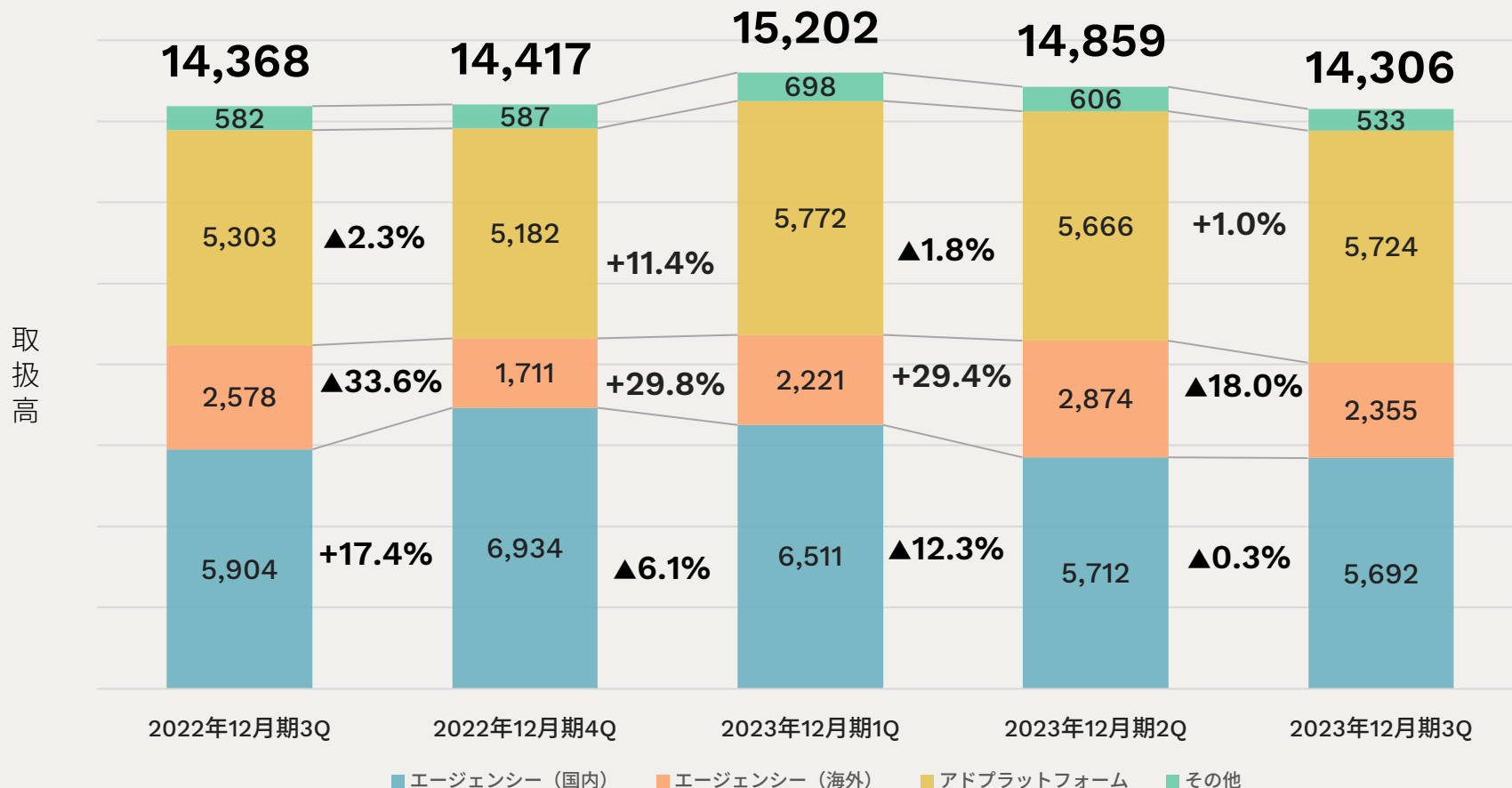
<p>エージェンシー事業 (国内)</p>	<p>当社グループの売上の中心はゲーム・マンガアプリの広告ですが、市場のコモディティ化※や人気アプリがリリースから長期間経過し新鮮味が失われつつある事などによって、クライアントの収益が減少傾向となっており、広告予算が減少しております。そのため、それ以外の広告の新規開拓に注力しており、大型案件の受注もありましたが、ゲーム・マンガアプリ広告の減少傾向を補うまでには至りませんでした。引き続きゲーム・マンガアプリ以外の広告の新規開拓に注力し、特定の分野にとらわれないクライアントの獲得を目指します。</p> <p>また、テレビの視聴率低下の影響を受け、テレビCMのデジタルメディアへの移行がより進むことが予想されております。当社グループにおいても、デジタルメディアでの広告獲得を一層強化いたします。</p> <p>※コモディティ化：市場が活性し、他社が参入し機能や品質などで差がなくなってしまうこと</p>
<p>エージェンシー事業 (海外)</p>	<p>台湾においては、中国のゲーム会社が日米市場を優先していることにより、予算縮小や大型の新規タイトルのリリース本数もが減少しており、アプリ広告にも影響が及んでいます。また、景気悪化により台湾の広告予算も全体的に縮小しており、ブランド広告も減少しております。そのためUNICORNの展開や、IDEA Push、LINE公式アカウント運営といった比較的好調なLINE関連のサービスを軸に販売強化を図っております。</p> <p>中国においては、主力となるアプリ広告、ブランド広告ともに好調でしたが、貸倒引当金の計上を行ったため、営業利益に影響がでました。今後はクライアント管理も強化してまいります。</p>
<p>アドプラットフォーム 事業</p>	<p>UNICORNはここ数年、順調に業績を伸ばしてきましたが、広告配信目的が多様化し、取扱広告ジャンルが拡大する中で配信ロジックがうまく対応できないケースが増えてきていました。また、スマホアプリ広告を取り巻く計測環境は全世界的に変化してきており、変化への対応に時間がかかった結果、取扱高が減少しております。広告配信目的の多様化、取扱広告ジャンルの拡大に対しては、配信ロジックのアップデートで対応してきましたが、そのアップデートが本来意図しない挙動を起こしておりました。その点の発見に時間がかかりましたが、原因を解明し対策を立てるとともに再発防止策を策定いたしました。計測環境の変化に対しては、単なる対応のみでは広告配信における直接的な送客効果を逸失する恐れがあると考え、時間をかけて検討、改善を進めてまいりました。両要因に対しても第3四半期中に対応は完了いたしましたので、第4四半期以降は改善が見込まれます。また、第4四半期以降はブランド広告におけるYouTube配信の最適化や台湾での展開に注力することで更なる成長を見込んでおります。</p>

当四半期のセグメントサマリー

<p>エージェンシー事業 (国内)</p>	<p>セグメント取扱高：56億92百万円 前年同四半期比：2億11百万円減少（3.6%減）</p> <p>ゲームアプリ、マンガアプリはほぼ横ばいとなる。 QRコード決済アプリなどで、前年同四半期に大規模なプロモーションを行ったためその反動減の影響で減少。</p>
<p>エージェンシー事業 (海外)</p>	<p>セグメント取扱高：23億55百万円 前年同四半期比：2億23百万円減少（8.6%減）</p> <p>アプリ事業では台湾でクライアントの予算縮小や大型の新規タイトルのリリース本数が減少。ブランド事業でも台湾の景気悪化によって予算が縮小した事などにより減少。</p>
<p>アドプラットフォーム 事業</p>	<p>セグメント取扱高：57億24百万円 前年同四半期比：4億21百万円増加（7.9%増）</p> <p>UNICORNは外部環境やロジックの不備により減少となったものの、JANetの金融ジャンルを中心にアフィリエイトが大きく伸長。</p>

取扱高の四半期推移

単位：百万円



当四半期取扱高 143億6百万円

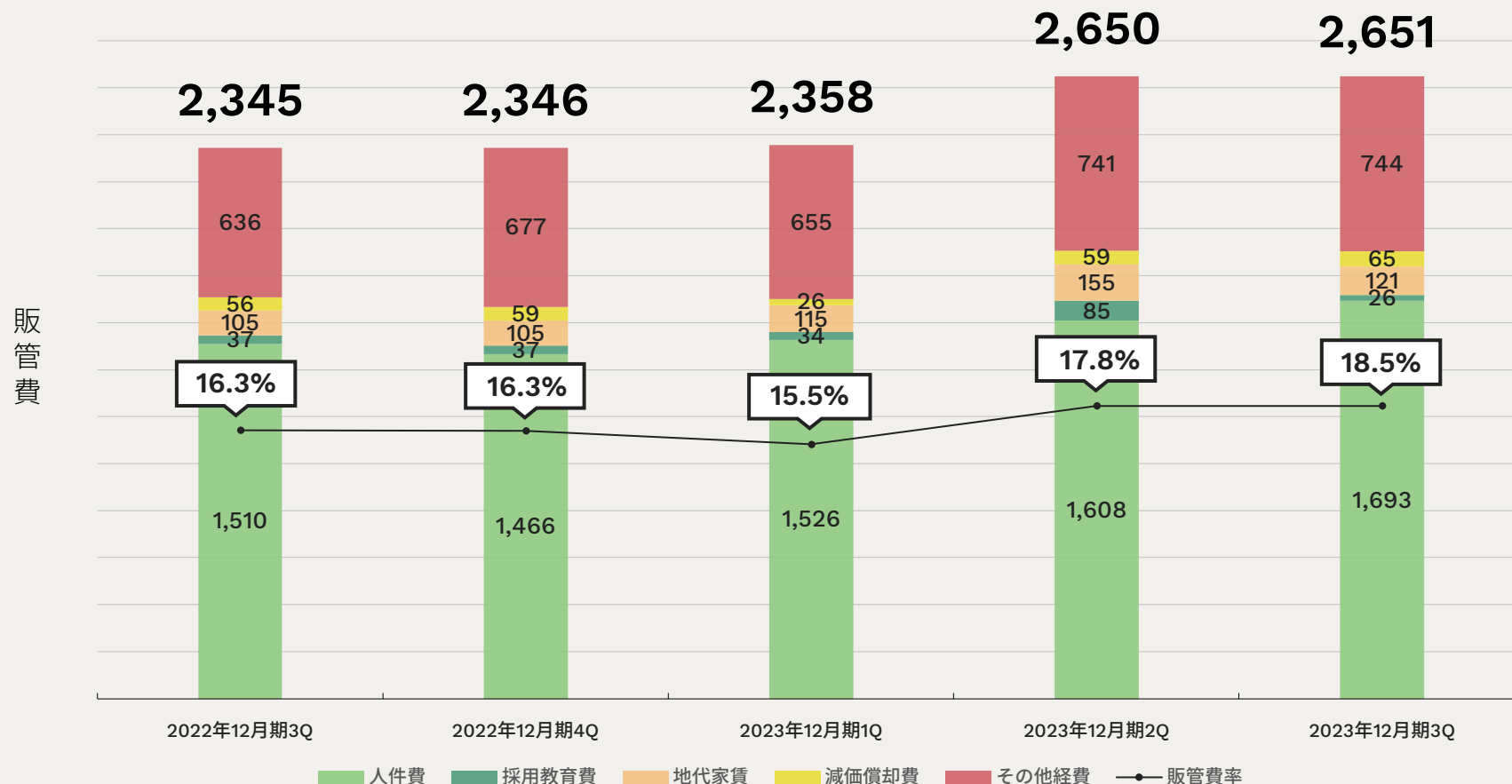
前年同四半期比 : 62百万円減 (0.4%減)

前四半期比 : 5億52百万円減 (3.7%減)

販管費の四半期推移

- ①第2四半期までは発生していなかった賞与引当金繰入を計上した事等により人件費が増加
 - ②貸倒引当金繰入を計上した事等によりその他販管費が増加
- なお、賞与引当金繰入は第4四半期にも計上される見込みとなります。

単位：百万円



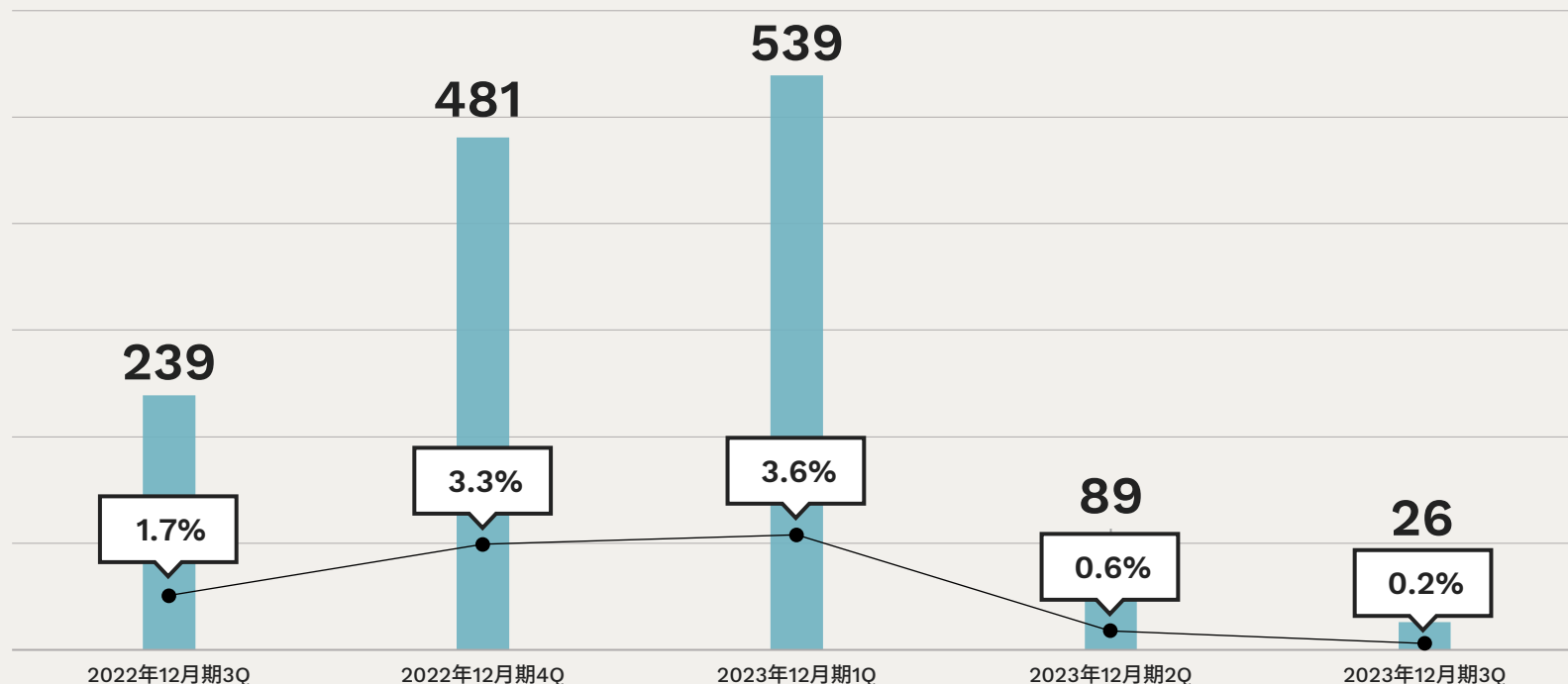
当四半期販管費 26億51百万円

前年同四半期比：3億6百万円増（13.1%増）

販管費率：18.5%（2.2ポイント増）

営業利益の四半期推移

単位：百万円



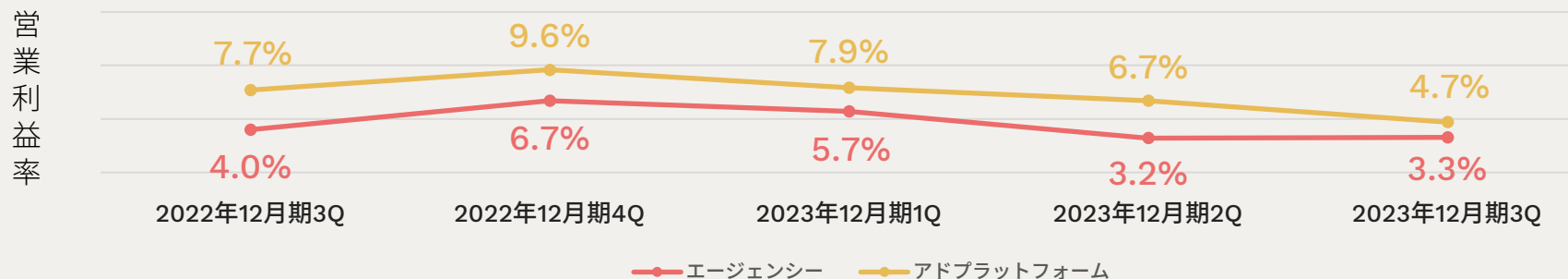
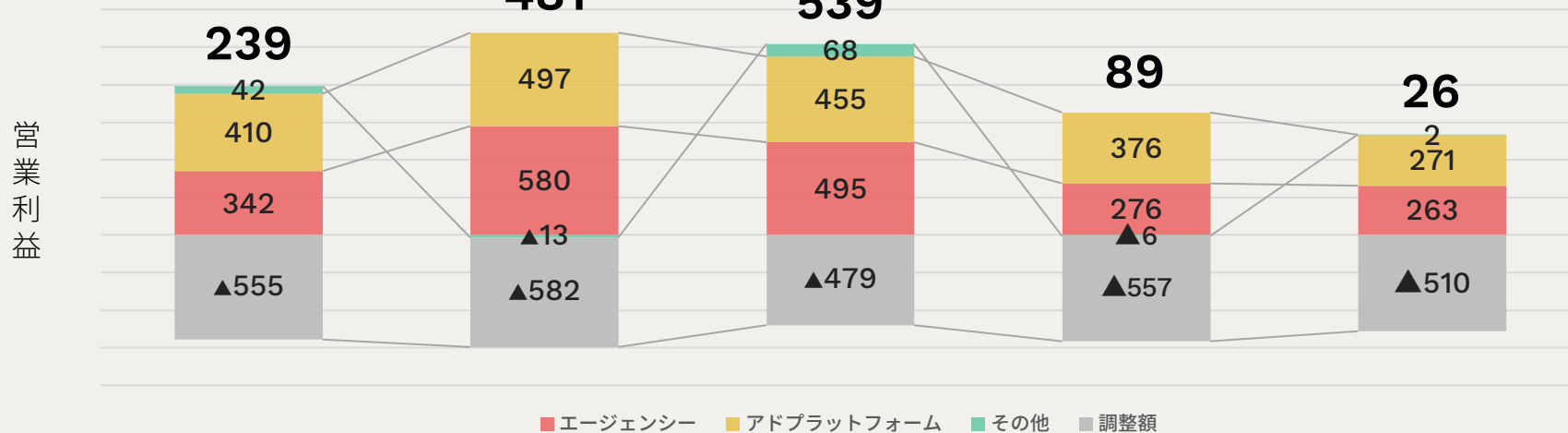
当四半期営業利益 26百万円

前年同四半期比 : 2億13百万円減 (89.0%減)

営業利益率 : 0.2% (1.5ポイント減)

営業利益の四半期推移 (セグメント別)

単位：百万円



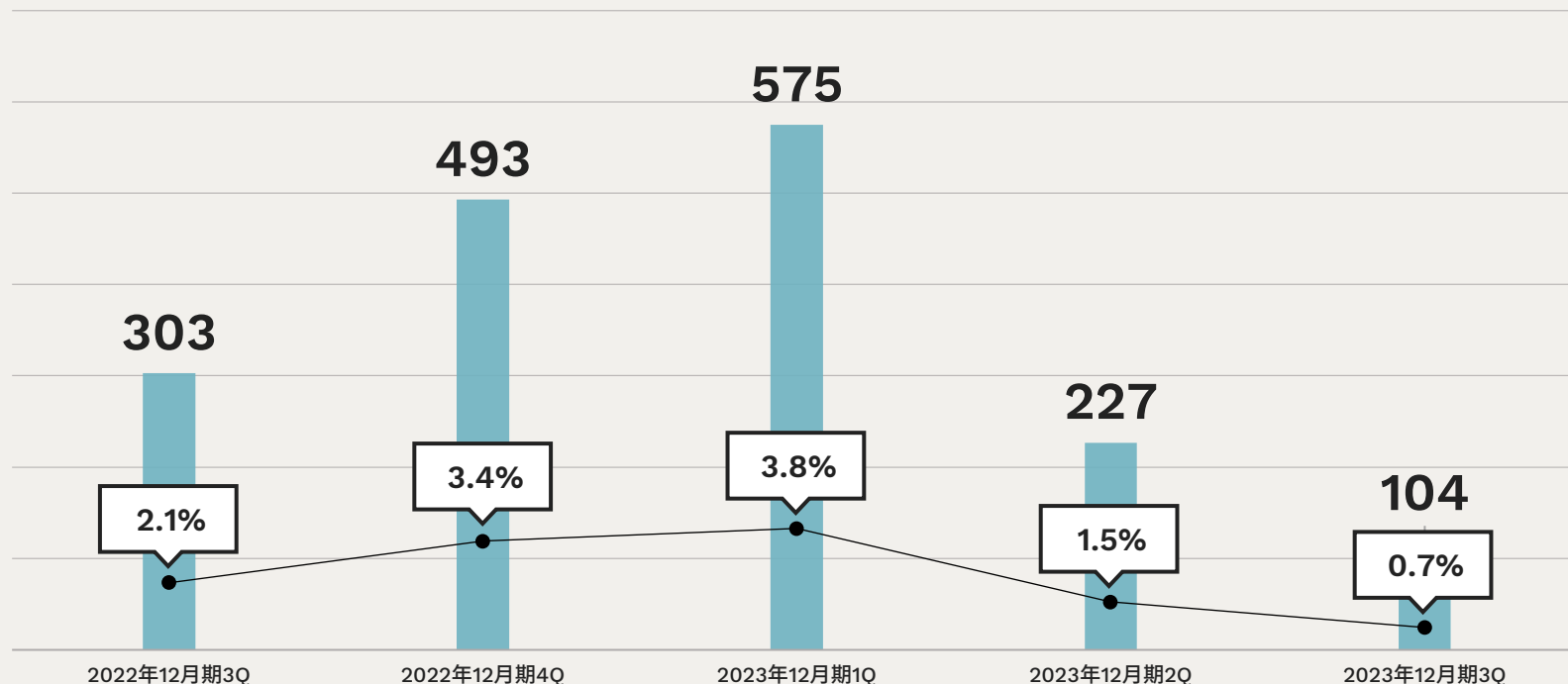
当四半期営業利益 26百万円

前年同四半期比 : 2億13百万円減 (89.0%減)

営業利益率 : 0.2% (1.5ポイント減)

経常利益の四半期推移

単位：百万円



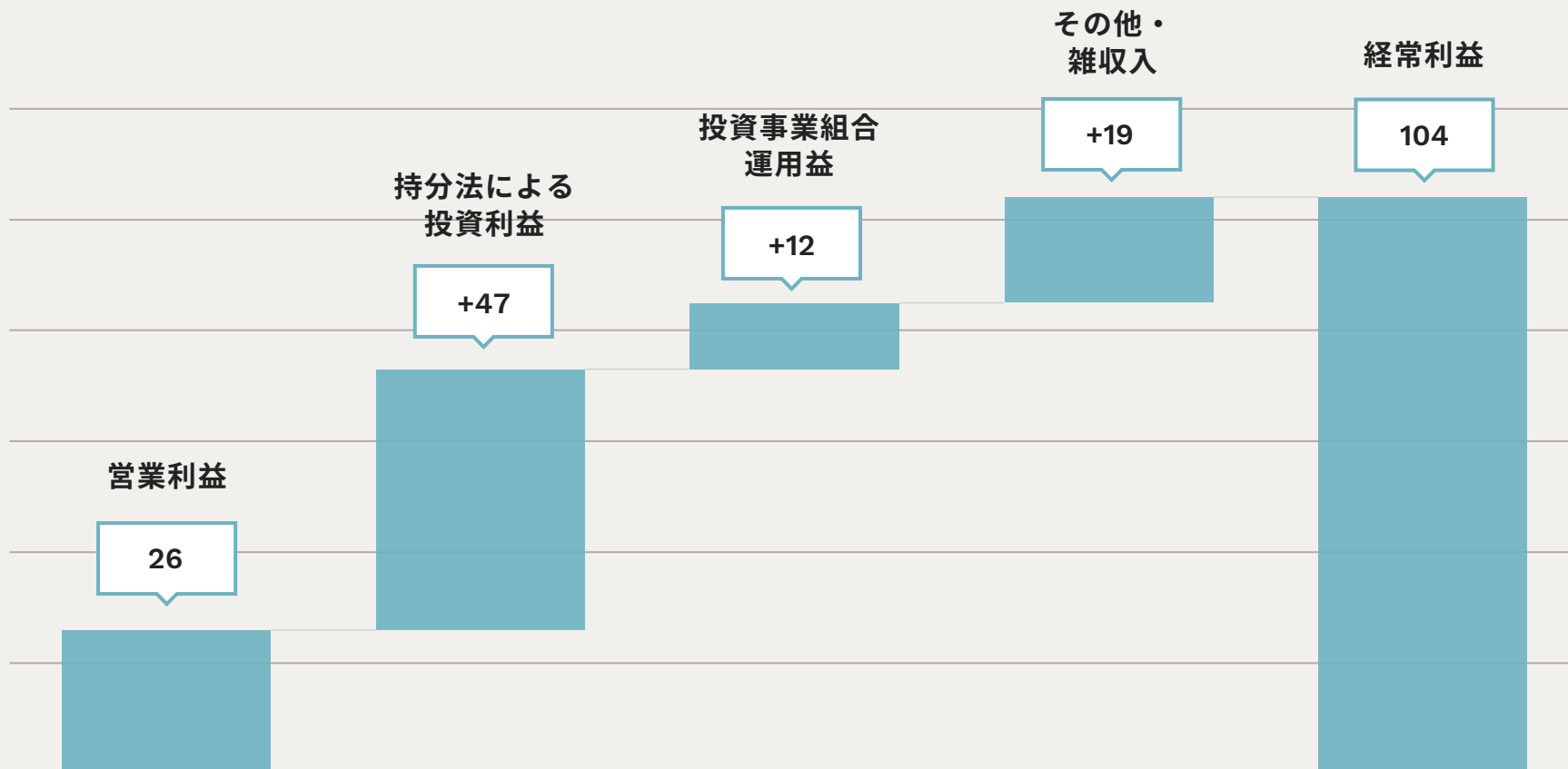
当四半期経常利益 1億4百万円

前年同四半期比：1億99百万円減（65.7%減）

経常利益率：0.7%（1.4ポイント減）

経常利益の推移

単位：百万円



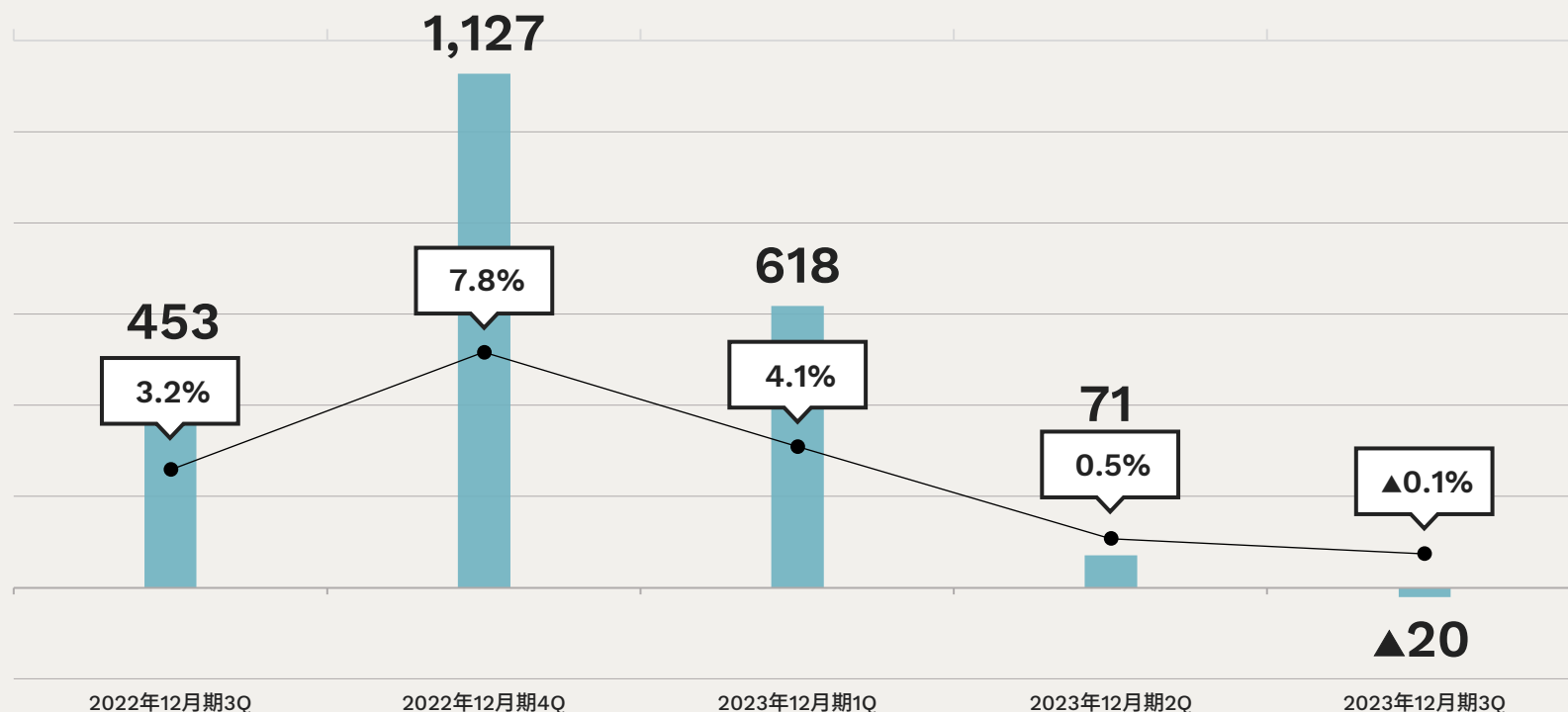
持分法による投資利益 47百万円

投資事業組合
運用益 12百万円

その他・雑収入 19百万円

親会社株主に帰属する四半期純利益の四半期推移

単位：百万円



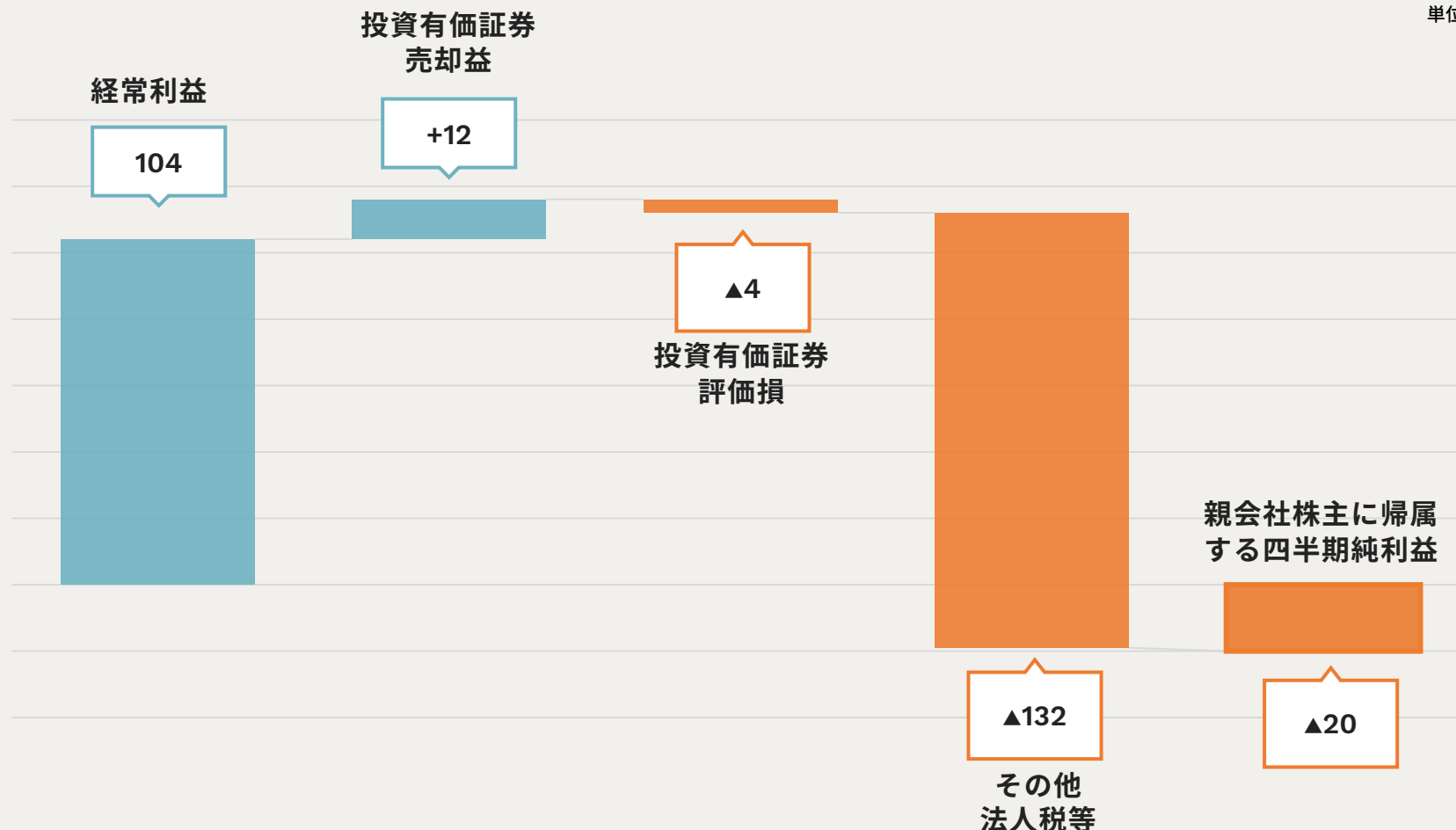
親会社株主に帰属する
四半期純利益 ▲20百万円

前年同四半期比：4億74百万円減 (-)

利益率：▲0.1% (-)

親会社株主に帰属する四半期純利益の推移

単位：百万円



投資有価証券売却益 12百万円

投資有価証券評価損 ▲4百万円

その他法人税等 ▲1億32百万円

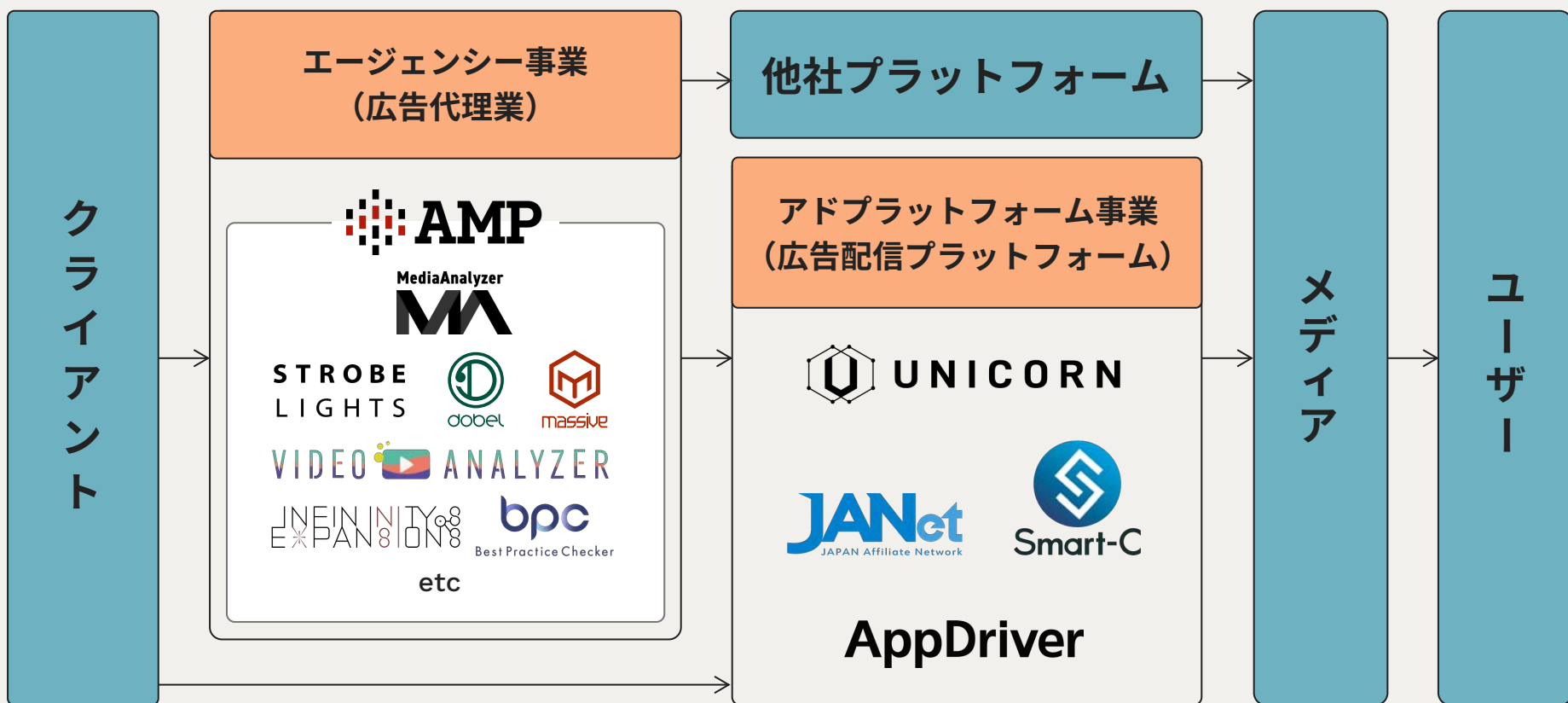
2.

Chapter 2: **business overview**

事業概況

広告事業の概況

広告事業の分類



広告事業を、他社サービスの販売も行うエージェンシー事業と、自社の広告配信プラットフォームを運営するアドプラットフォーム事業に分類。

エー ジ エ ン シ ー
事業 (国内)

アプリ・ウェブの包括的マーケティング支援事業

エージェンシー事業 (国内) 事業方針

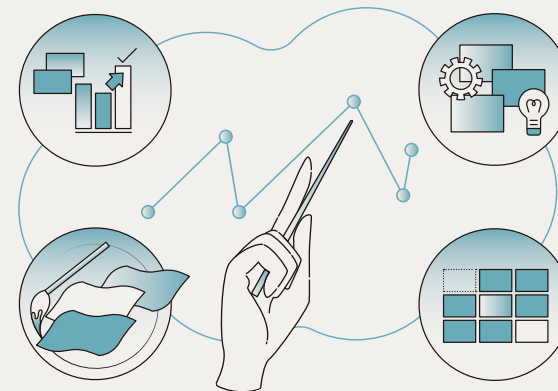
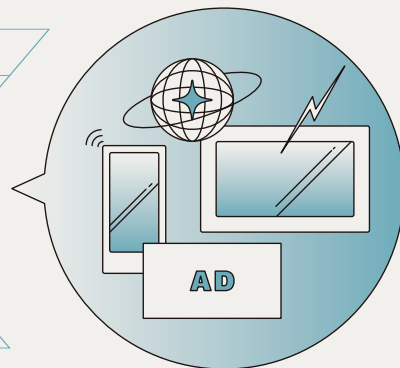
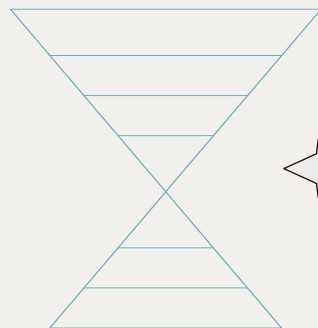
Third quarter

顧客の事業成長ドライバーとして、 マーケティングDXを実現

Hakuhodo DY holdings



Hakuhodo DY
media partners



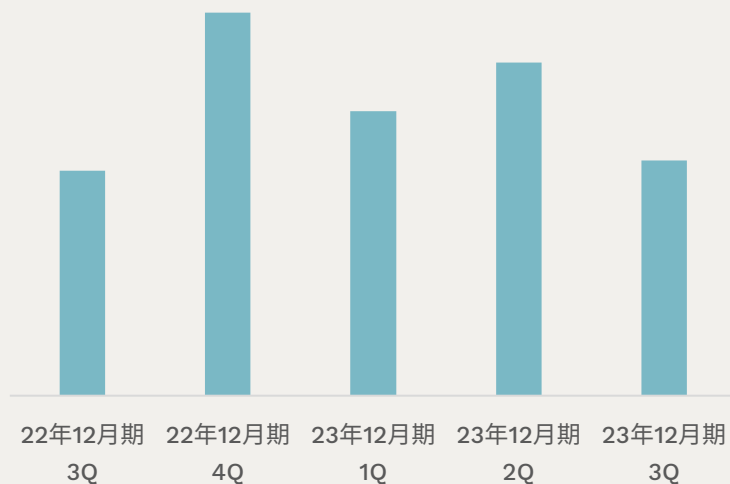
エージェンシー事業では、オフライン&オンラインの統合プランニングによる、包括的なマーケティング支援に取り組んでいます。ナショナルクライアント（ブランド広告主）へのアプローチや、“テレビとデジタルの統合プランニング”による“フルチャネル※1”“フルファネル※2”を意識した、より効果的なマーケティングプランを実行するため、広告という枠組みに囚われず、マーケティングコンサルタントとして、あらゆる課題解決に取り組みます。また、「人」による高い運用力・創造力とAIを活用した高度な「マーケティングテクノロジー」を融合し、本質的な広告価値を生み出すことで、クライアントの事業成長を包括的かつ効率的に支援いたします。

※1) フルチャネル：集客するための媒体、経路などを広く活用する事

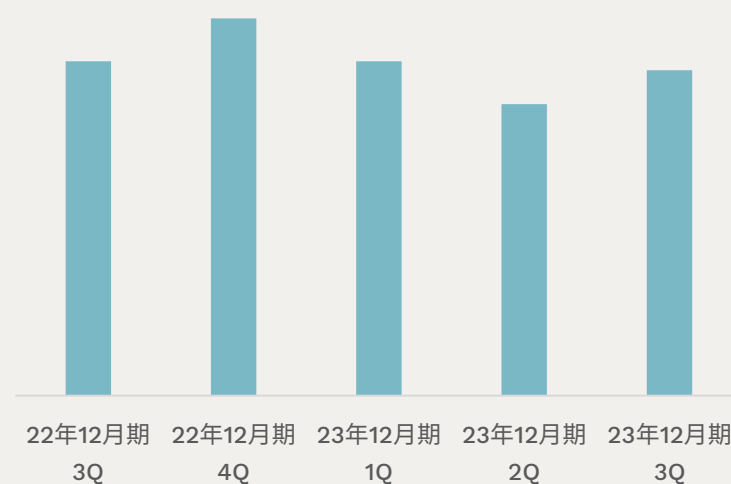
※2) フルファネル：消費者の商品に対する認知や検討、購入（利用）など多くの行動に対応する事

博報堂 D Y グループ 資本業務提携の 進捗

博報堂 D Y グループ 協業 売上総利益推移



博報堂 D Y グループ 協業 アカウント数推移



2023年12月期第2四半期までの資料では、博報堂 D Y グループとの協業「取扱高」のグラフとしておりましたが、当社マージンにメディアへの支払額を加えた金額が取扱高になる場合と、当社マージンのみが取扱高になる場合があり、より正確に推移を示すため、2023年12月期第3四半期から、過去分も遡り博報堂 D Y グループとの協業「売上総利益」のグラフに変更しております。

前年同四半期比で、売上総利益が微増。

アドプラット
フォーラム事業

UNICORN・アフィリエイトなどの広告サービス事業



UNICORN

REDEFINE DIGITAL MARKETING.

アドプラットフォーム事業 (UNICORN) 事業方針

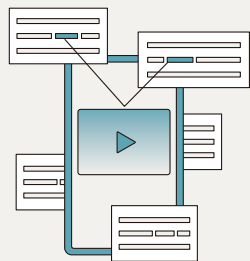
チャンネル × 提供価値 × アカウントの
3軸で立体的に拡大



UNICORNでは、Apple Search Ads | Todayタブ、検索タブ、検索結果、プロダクトページでの自動最適化配信に加え、コネクテッドTVやOTT※等のサービスと連携し、配信面においても拡大を続けています。また、試験運用を経てYouTubeへの対応が完了し、広告配信メニューの提供を開始。あらゆるチャンネルでのユーザーコミュニケーションの最適化を実現してまいります。

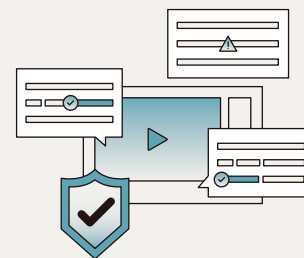
YouTube×コンテキスト配信 メニューの提供を開始

ブランド広告主のYouTube広告パフォーマンス最大化を支援。



ブランドと親和性の高い
コンテンツへの配信

映像説明情報（タイトル・説明文・タグ等の情報）を元に、UNICORN独自の解析テクノロジーを駆使し、関連性の高い動画へ配信。



ブランドセーフティを担保

ブランド毀損に繋がるキーワードを設定することで、対象キーワードを含むチャンネルを除外し配信。

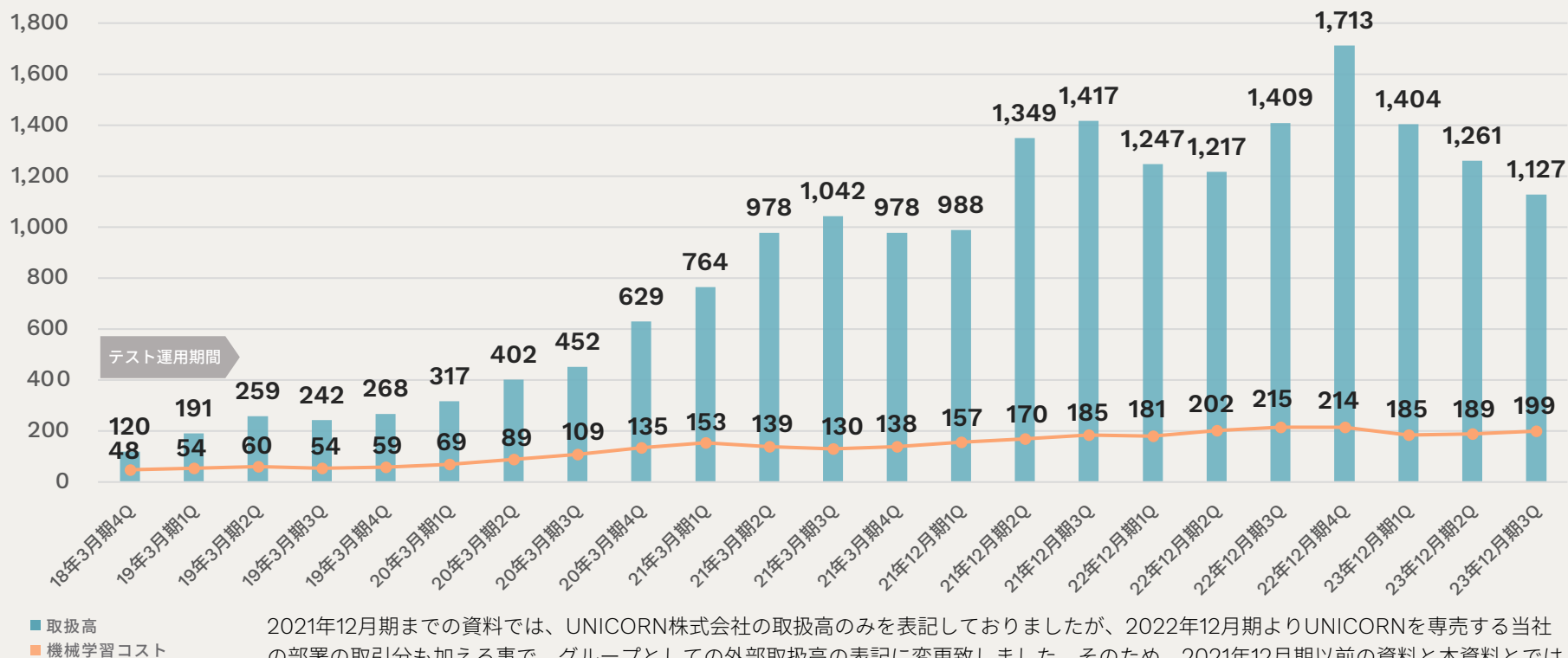
動画説明情報をテキストマイニングし、動画コンテンツを自然言語解析。
関連性の高い動画コンテンツへ広告配信をすることで、動画コンテンツと
広告内容のミスマッチを防ぎ、顕在化したユーザーへのアプローチが可能に。

UNICORNの進捗

Third quarter

UNICORNの取扱高／機械学習コスト推移

単位：百万円



2021年12月期までの資料では、UNICORN株式会社の取扱高のみを表記しておりましたが、2022年12月期よりUNICORNを専売する当社の部署の取引分も加える事で、グループとしての外部取扱高の表記に変更致しました。そのため、2021年12月期以前の資料と本資料とでは取扱高が異なります。（他商材も扱う部署の取引分は加えておりません）

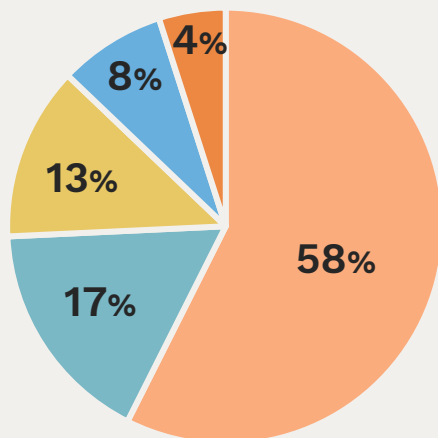
取扱高は、外部環境の変化、最適化ロジックに不備があり前年同期比で80%となる。

About UNICORN

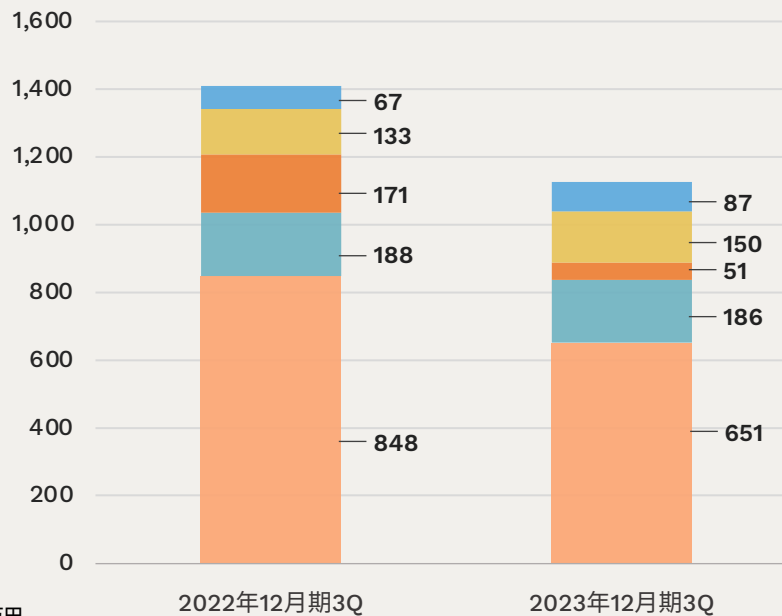
UNICORNの進捗

ジャンル別進捗

2023年12月期3Q実績



■ ゲーム ■ ブランド ■ マンガ ■ VOD ■ その他



単位：百万円

■ ゲーム ■ ブランド ■ マンガ ■ VOD ■ その他

ゲーム・マンガのジャンルが減少。

UNICORNの進捗

UNICORNの業績：前年同四半期比較

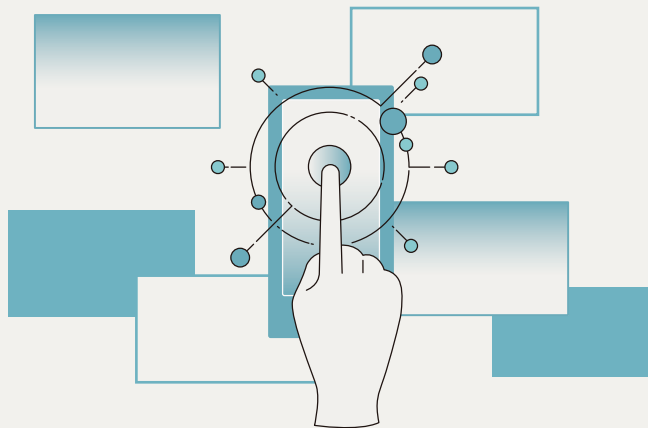
単位：百万円

	2023年12月期 第3四半期	前年同四半期比 2022年12月期第3四半期		
		実績	増減額	増減率
取扱高	1,127	1,409	▲282	▲20.0%
売上総利益	373	490	▲117	▲23.9%
営業利益	▲3	133	▲136	—

取扱高、売上総利益、営業利益がそれぞれ減少。

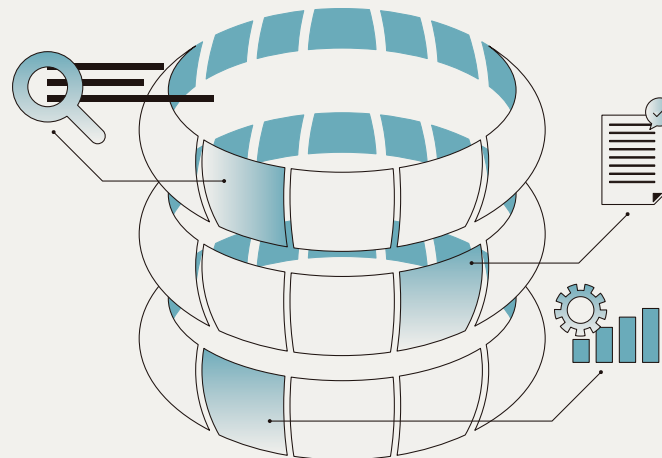
About UNICORN

先進的な広告手法 UNICORN Interactive AD



最先端の
クリエイティブフォーマット

Banner / Video / Reward Video
Native / Interactive



UNICORNでの
高精度な配信最適化

コンテキスト / ロケーション / デモグラフィック
キャリア / 承認リスト
(approved list)

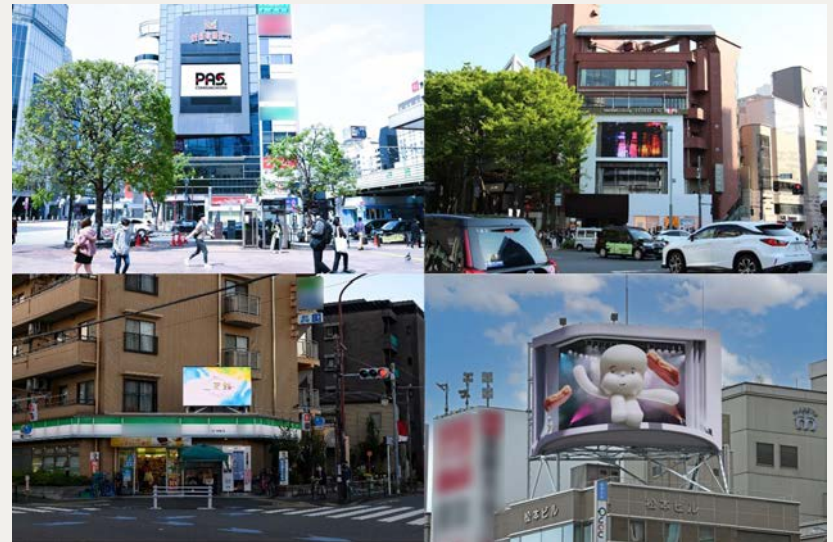
これまでに無かったクリエイティブで、これまでは出会えなかったユーザーと
全く新しい形のコミュニケーションを実現。

屋外大型ビジョンへのリアルタイム配信を実現するための連携を開始

パス・コミュニケーションズが保有する屋外大型ビジョンの広告枠をプログラマティック取引で買付け、動画/静止画フォーマットでのデジタル広告配信が可能に。



屋外大型ビジョンに関わる様々なサービスを提供。渋谷、表参道などの首都圏エリアを中心に、北海道から沖縄まで全国150基以上の大型ビジョンをメディアレップしています。



ユーザーとの新たな接点を増やし、クライアントのブランドの認知や獲得を実現。

D E E E

Delight
喜び

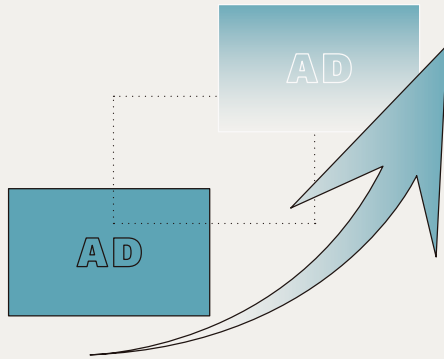
Exciting
わくわく

Eager
熱心

Exceed
超える

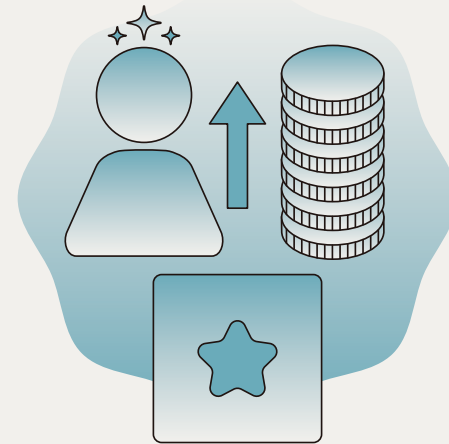
伝統と革新が融合する、
あたらしい集合体へ。

アドプラットフォーム事業 (ADWAYS DEEE)事業方針



アフィリエイト広告を
新たな概念へアップデート。

AppDriver



生活者体験の向上×メディア収益最大化
を実現するサービス開発の強化。

不正流入対策機能 「JANEEE Block」をリリース



不正流入を検知し、メール通知及び
「JANEEE Advertising Report」ダッシュボードでの確認が可能に。
機会損失を防ぎ、広告効果改善を支援。

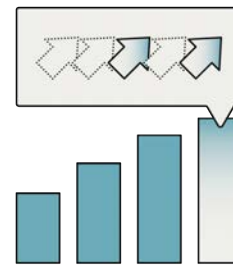
不正流入の検知
通知・可視化



不正IPを除外



不正クリック抑制
広告効果の改善



アフィリエイト広告の透明性・公平性の向上、健全化を推進。

その他事業 (広告以外)

広告事業以外の新たなソリューション

新たな体験・価値の提供

Third quarter

広告事業以外での新たなソリューション、
事業の多角化を推進

Vtuber Business



タレント数29名／YouTubeチャンネル登録数合計約229万人

※2023年9月末時点

配信



グッズ・楽曲



イベント開催



メディア出演

テレビ朝日系列
「謎解き戦士！
ガリベンガーV」

日本テレビ
「MUSIC VERSE」

他多数

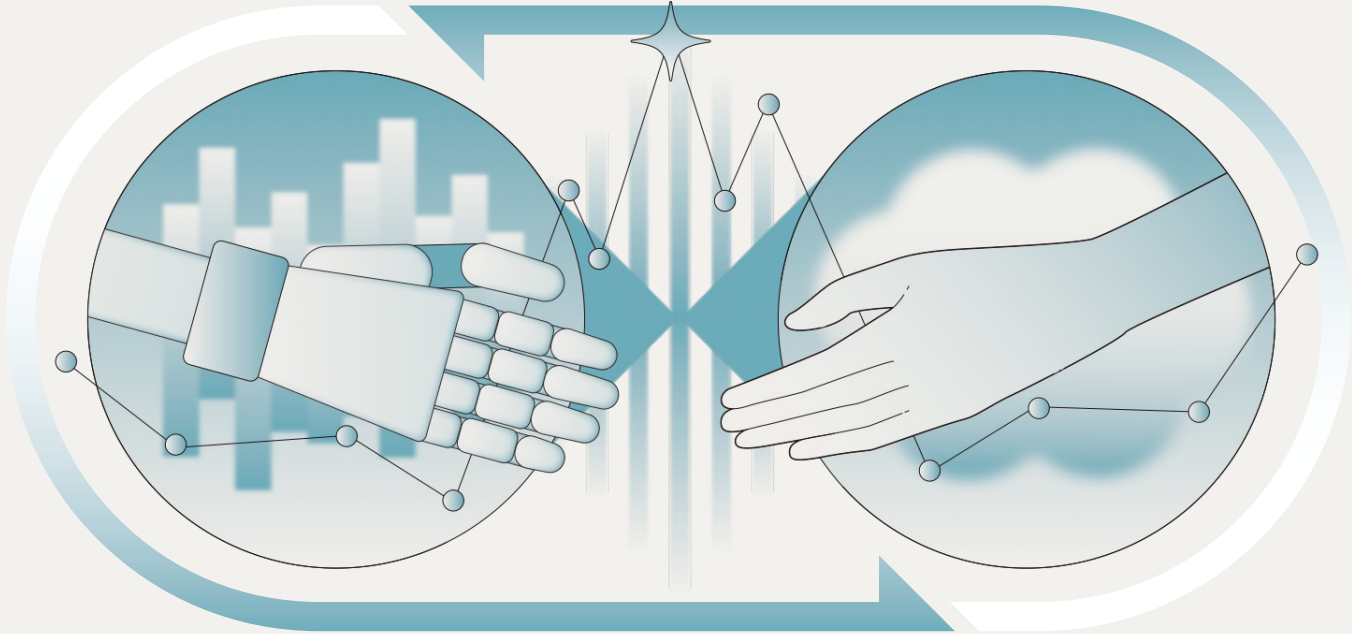
エンターテインメントでの新しい体験を提供

2023年8月 「ななし夏祭り2023」 を開催

「ななしいんく×アトレ秋葉原」やコラボカフェ、
ななしいんく初の1on1トークイベントを開催。



人と機械の共生



人にはできないことを
機械化

機械にはできないことを
人に集約

パフォーマンスの最大化

PURPOSE OF ADWAYS

**全世界に
「なにこれ すげー こんなのはじめて」
を届け、
すべての人の可能性をひろげる
「人儲け」を実現する。**

本日はありがとうございました

本資料は株式会社アドウェイズの事業及び業界動向についての株式会社アドウェイズによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確かさ、その他要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社アドウェイズは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、発表日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社アドウェイズにより**2023年10月31日**現在においてなされたものであり、様々な要因の変化等によって、実際の業績とは異なる可能性がありますことをご了承ください。

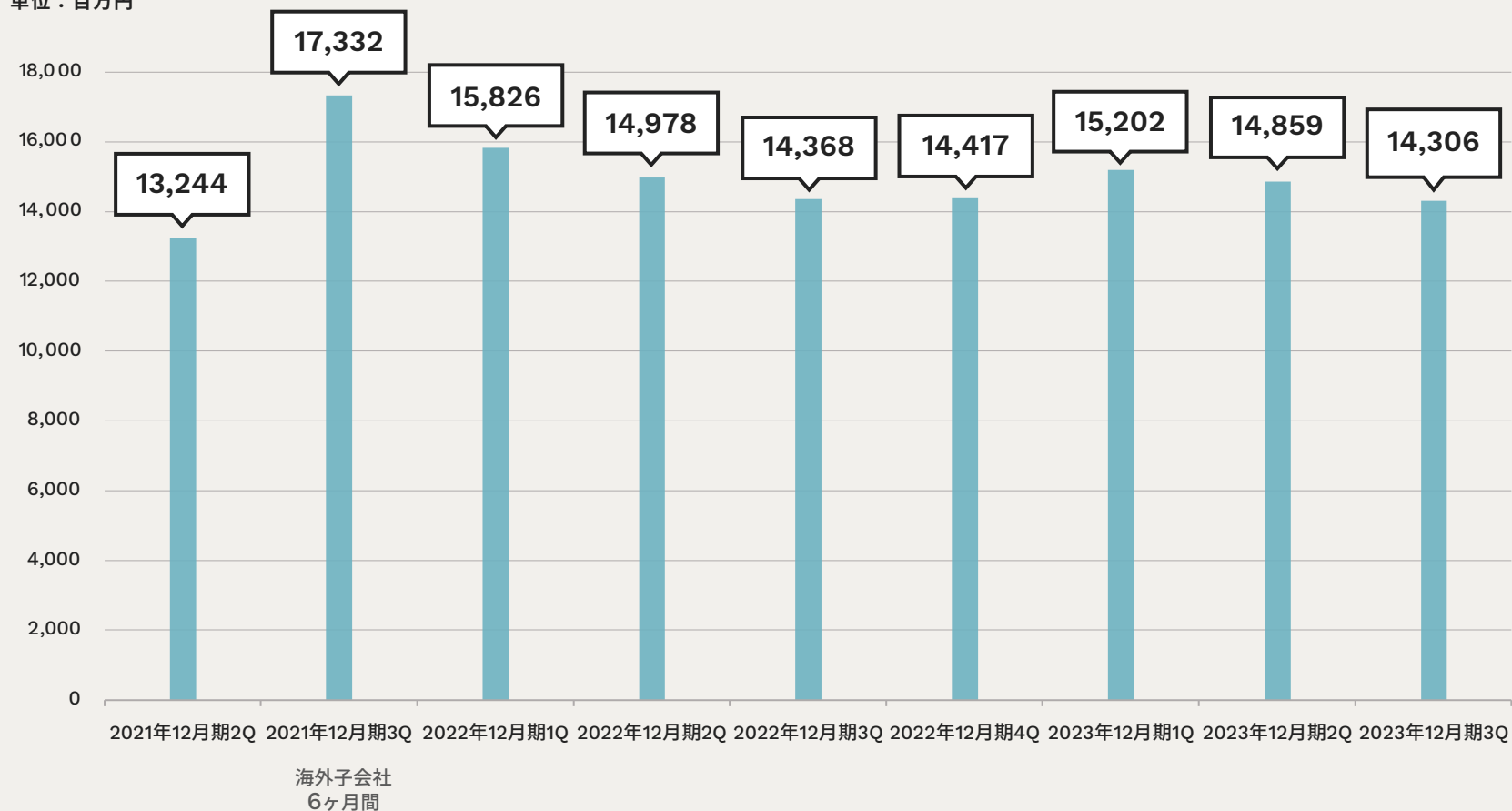
3

Chapter 3 : Supplementary materials

補 足
資 料

連結取扱高 四半期推移

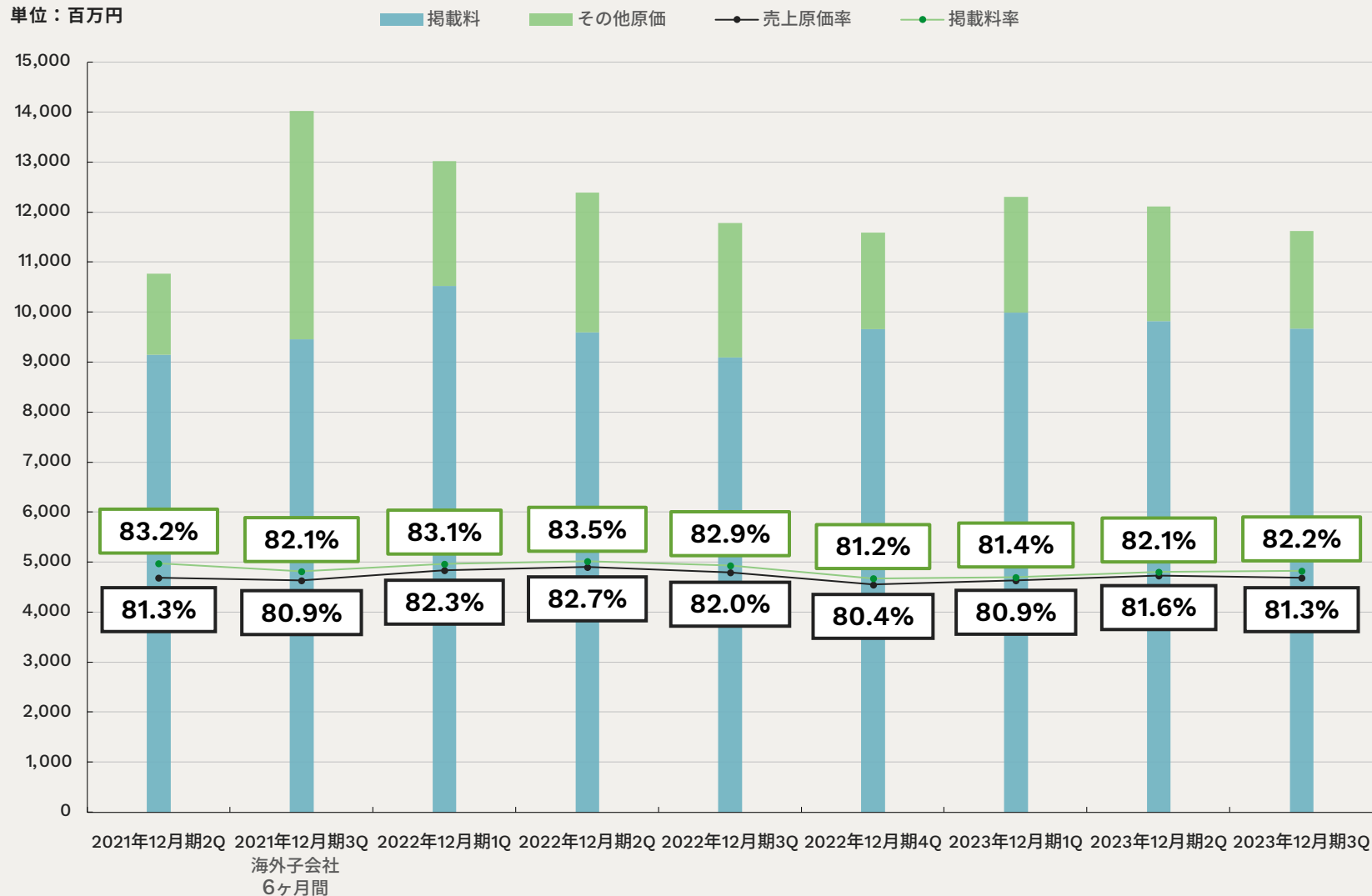
単位：百万円



※ 「2021年12月期3Q」は、決算期の変更に伴い、海外子会社の会計期間が6ヶ月間となります。

連結売上原価 四半期推移

単位：百万円



※ 「2021年12月期3Q」は、決算期の変更に伴い、海外子会社の会計期間が6ヶ月間となります。

※ 掲載料、掲載料率は単体とADWAYS DEEE合計での数値となります。

連結販管費 四半期推移

単位：百万円

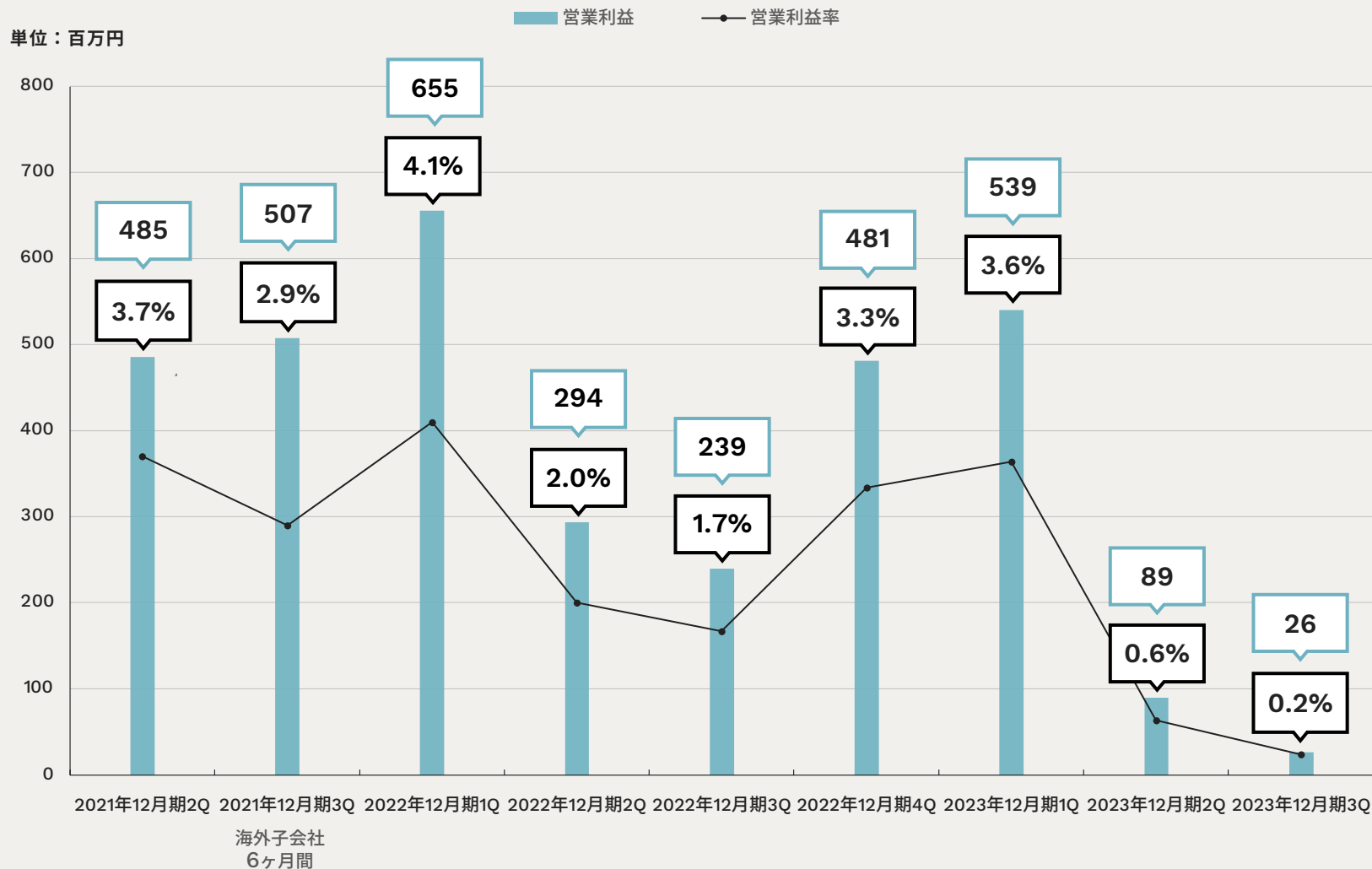
■ 人件費
 ■ 採用教育費
 ■ 地代家賃
 ■ 減価償却費
 ■ その他経費
 ● 販管費率



海外子会社
6ヶ月間

※ 「2021年12月期3Q」は、決算期の変更に伴い、海外子会社の会計期間が6ヶ月間となります。

連結営業利益 四半期推移



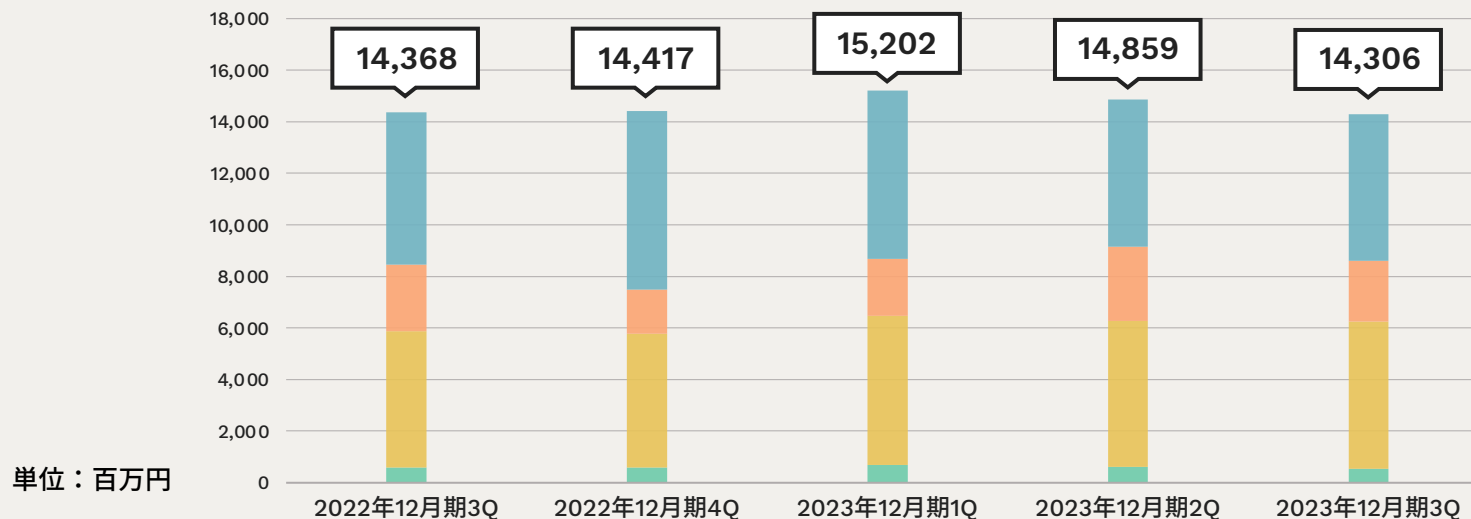
※ 「2021年12月期3Q」は、決算期の変更に伴い、海外子会社の会計期間が6ヶ月間となります。

連結貸借対照表（前四半期比）

単位：百万円

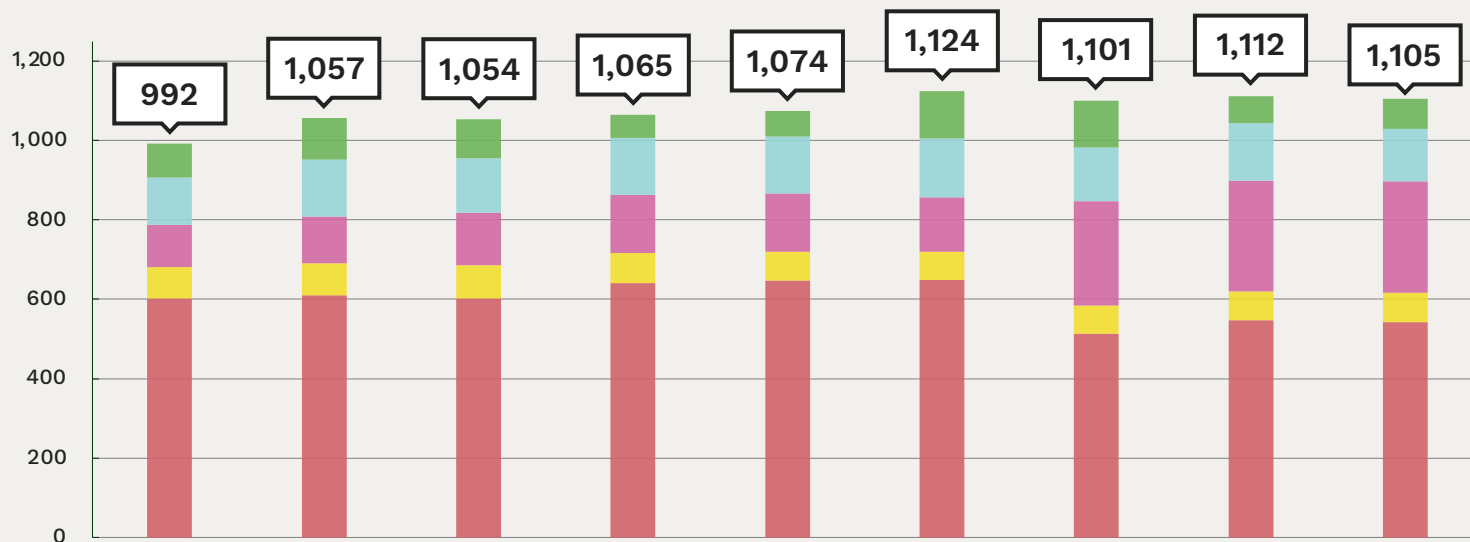
	2023年12月期3Q	2023年12月期2Q	増減額	増減率
流動資産	19,095	18,579	+515	+2.8%
（現預金）	9,757	9,823	▲66	▲0.7%
固定資産	5,444	5,240	+204	+3.9%
総資産合計	24,540	23,820	+720	+3.0%
流動負債	9,741	9,309	+431	+4.6%
固定負債	351	409	▲58	▲14.3%
負債合計	10,092	9,719	+373	+3.8%
純資産合計	14,447	14,100	+346	+2.5%

セグメント内訳別連結取扱高構成比 四半期推移



	2022年12月期3Q	2022年12月期4Q	2023年12月期1Q	2023年12月期2Q	2023年12月期3Q	前四半期比	
						増減額	増減率
■ エージェンシー(国内)	5,904	6,934	6,511	5,712	5,692	▲19	▲0.3%
■ エージェンシー(海外)	2,578	1,711	2,221	2,874	2,355	▲518	▲18.0%
■ アドプラットフォーム	5,303	5,182	5,772	5,666	5,724	+58	+1.0%
■ その他	582	587	698	606	533	▲73	▲12.1%
合計	14,368	14,417	15,202	14,859	14,306	▲552	▲3.7%

当社グループの従業員数 四半期推移



単位：名	2021年 12月期2Q	2021年 12月期3Q	2022年 12月期1Q	2022年 12月期2Q	2022年 12月期3Q	2022年 12月期4Q	2023年 12月期1Q	2023年 12月期2Q	2023年 12月期3Q
日本アドウェイズ	602	611	603	641	648	649	513	548	543
中国アドウェイズ	79	80	83	76	72	71	72	72	74
国内子会社	106	117	132	146	147	137	263	279	280
海外子会社（中国以外）	120	144	138	144	143	148	135	145	133
派遣／アルバイト等	85	105	98	58	64	119	118	68	76
合計	992	1,057	1,054	1,065	1,074	1,124	1,101	1,112	1,106

※2023年12月期1Qより、アドプラットフォーム事業を分割し、子会社化したため、日本アドウェイズが減少、国内子会社が増加しています。

会社概要

会社名

株式会社アドウェイズ (英名 : Adways Inc.)

設立年月日

2001年2月28日

事業概要

インターネット関連事業

代表者氏名

山田 翔

資本金

1,716百万円

[2023年9月末日現在]

取扱高

59,590百万円

[2022年12月期連結]

従業員数

1,106名 (グループ全体)

[2023年9月末日現在]

※臨時雇用者含む